兵庫県立神出学園

創立30年記念

発行者：公益財団法人兵庫県青少年本部
兵庫県立神出学園
〒651-2304 兵庫県神戸市西区神出町小束野 30 番地
TEL：078-965-1122　FAX：078-965-1123

印　刷：竹内印刷株式会社
〒675-1378 兵庫県小野市王子町 669-1
TEL：0764-63-6300

令和 5 年 11 月 3 日発行

目 次

あいさつ〈県立神出学園創立 30 年に寄せて〉

兵庫県知事　齋藤元彦 …… 1
公益財団法人兵庫県青少年本部理事長　上田賢一 …… 2
関西福祉大学（県立神出学園前校長）　宮脇智子 …… 3
県立神出学園校長　榎本好子 …… 4

県立神出学園の沿革 …… 5

平成 25 年度～令和５年度（創立 20 年～ 30 年）の活動の様子

平成 25 年度 …… 7
平成 26 年度 …… 8
平成 27 年度 …… 9
平成 28 年度 …… 10
平成 29 年度 …… 11
平成 30 年度 …… 12
令和元年度 …… 13
令和 2 年度 …… 14
令和 3 年度 …… 15
令和 4 年度 …… 16
令和 5 年度 …… 17

ある日の思い出 …… 18
修了生アンケートなどから見えてきたもの …… 19
新しい場所へと巣立った学園生たち（修了時の進路）…… 24
修了生やご家族からのメッセージ …… 25
新聞記事から振り返る …… 29
歌い継がれるもの　～神出の僕ら～ …… 33
癒しの丘の学園長～小林剛学園長の思い出～ …… 35

県立神出学園創立 30 年に寄せて

兵庫県知事
齋藤　元彦

県立神出学園が創立 30 年を迎えました。学園生たちの成長を温かく見守り、支えてこられたスタッフをはじめ、地域住民や事業者など、関係の皆様に深く敬意を表しますとともに、心から感謝いたします。

本学園は、全国初の全寮制公立フリースクールとして、平成６年 10 月に誕生しました。以来 30 年にわたり、不登校など、さまざまな悩みを抱えた若い方々を支援してきました。雌岡山の豊かな自然のもとで、多くの若者たちが寮生活を共にしながら、農業体験や情報・デジタルアートなどの多彩なプログラムに取り組むことで、自信と元気を取り戻し、それぞれの進路へと巣立っていきました。これまでに約 800 名の若者が本学園を修了し、新たな進路に進まれています。

この 30 年間、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しました。SNS やスマートフォンなどの普及により、コミュニケーションのあり方や、心身の健康にもさまざまな影響が生じています。さらに、３年超に及ぶコロナ禍により、生きづらさや孤独、不安を感じる方も増え、不登校児童生徒の増加や、中高年を含めたひきこもりなどの課題も顕在化しています。

このような中だからこそ、人とのつながりや体験を大切に、長年にわたり若者への支援を積み重ねてきた本学園には、大きな期待が寄せられています。

これからも、職員、教務スタッフ、心理カウンセラーなどが一丸となり、地域の皆様とも連携を深めながら、学園生一人ひとりの悩める心に寄り添ってまいりますので、関係の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、学園生の皆様が、本学園での経験をステップに、希望をもって歩んでいかれることを心から願っています。

県立神出学園創立 30 年に寄せて

公益財団法人兵庫県青少年本部
理事長　上田　賢一

県立神出学園は本年、創立 30 年を迎えることができました。皆様方のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

神出学園は、不登校やひきこもりを経験した子どもたちが、広大な播磨平野を臨む豊かな自然の中で仲間やスタッフとふれあい、様々な体験プログラムと寮生活を通じて自分を見つめ直し、生き方を発見できるよう支援する全国初の公立のフリースクールとして、平成６年 10 月に開園しました。

以来 30 年、学園生活を通して元気を取り戻した修了生は 790 名を超え、通信制高校の卒業や大学・専門学校への進学、就職など、それぞれの進路を切り拓いています。

現在、スタッフの皆さんの協力のもと、学園生たちは、日常生活を快適なものにするための技術力や想像力を養う「生活創造活動」、美術・音楽等のさまざまな「芸術創造活動」、自己の趣味や特技を生かした生きがい探索に資する「スポーツ身体表現活動」、学園外で自然や文化にふれ合う「ふれあい体験」、進路選択や自らが進む道を考える「チャレンジ未来体験」等を通じて、人生を楽しむ力を身につけるとともに、学園生自らが企画・立案する夏祭りや学園祭など多彩なプログラムにも挑戦して、自主性や創造性を育んでいます。

また、修了生への継続支援として、修了後の１年間はフォローアップ期間と位置づけ、教務・心理担当によるカウンセリングも行っています。

「本当の居場所を見つけた君は『ありがとう』の気持ちのままで飛べればいい」これは、修了生が書いた歌詞をもとに音楽の先生が作曲した学園歌の一節です。

私たち神出学園に携わる者として、様々な経験を積み、学園生一人ひとりが自立心を大切にして、この「神出学園」から大きく羽ばたいてくれることを心から願ってやみません。

県立神出学園創立 30 年に寄せて

関西福祉大学（県立神出学園前校長）
宮脇　智子

創立 30 年おめでとうございます。

令和３年度・４年度の２年間、神出学園に校長として奉職いたしました。神出学園を離れてまだ数ヶ月しか経っていませんが、学園で過ごした日々がいかに貴重なものであったか、しみじみとかみしめています。不登校やひきこもりを経験した学園生が見事に成長し、巣立っていく姿を見送るのは、寂しい反面、得難い喜びでした。学園生や保護者の皆様との触れ合いを通じ、私自身も成長させていただいたと思っております。

在職中に聞いたある学園生の言葉が、今でも耳に残っています。それは、「不登校になったとき、学校の先生がいろんな言葉をかけてくれたけれど、受け入れる準備が出来ていなかったから、何も覚えていません。でも今は、いろんな人の話を受け入れられるようになりました」という言葉です。

蝶が羽化する前の「さなぎ」は、動きは一切ありませんが、殻の中では芋虫から蝶へと大変身が起こっています。学園生がいう「準備」は、さなぎにも似た時間だったのかも知れません。社会の変化に伴い気ぜわしさが増し、大人たちは「成長を信じて寄り添いながら待つ」ことが、苦手になってきたように思います。ですが、さなぎが蝶になるには、安全な環境と時間が必要です。神出学園は、羽化までの時間が他の蝶よりほんの少し長くかかる「さなぎ」たちにとって、安心して中身を成長させることのできる貴重な場なのです。

近年、不登校の子どもは増え続けており、神出学園の存在意義はますます大きくなっています。それは、不登校・ひきこもりを経験した若者の成長の場としての意義だけではありません。神出学園の 30 年に渡る不登校・ひきこもり支援の知見やノウハウは、支援に携わる多くの人々の道しるべとなっています。これからも学園の知見を広く世に知らせていただければと願っております。

今後の神出学園の一層のご発展を心からお祈り申し上げます。

県立神出学園創立 30 年に寄せて

兵庫県立神出学園
校長　榎本　好子

神出学園は「自然は心を癒す」との考えに基づき、30年前、この自然豊かな神出の地に誕生しました。緑の稜線を背景にしたチロル風の建物や、動物がのんびりと過ごす牧場など、学園生がリラックスして過ごせるよう様々な工夫の施された施設設備、どこにも前例のなかった公立の全寮制フリースクールの仕組み、当初から行われている学園独自のプログラムなどには、30年前に学園の開設準備に携われた方々の深い思いと優しさを感じます。

そして創立以来多くの若者が自信や元気、勇気を取り戻し、ここを巣立っていくことができたのは、一人一人の学園生の努力と、それを支えたスタッフやご家族、講師の先生、関係機関の方々、そして、神出学園を支え、応援してくださっている皆様方のお陰であることを、日々実感しております。学園を代表し、皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、学園生の皆さん、この広い学園の敷地の中には、すてきな場所がたくさんありますが、皆さんのお気に入りの場所はどこですか？　人の往来を感じられる本館の階段、いろんな楽器の並ぶ音楽室、寮の談話室のソファー、調理員さんが働く様子の見える食堂、夜の体育館など、これまでいろんな場所のこと、その場所でのスタッフや友だちとの楽しい出来事、ドキッとした出来事など、たくさんの思い出を教えてもらいました。神出学園では大きな行事や特別なプログラムだけでなく、日々の出来事の一つ一つが皆さんの成長の糧、エネルギーの元になっていると思います。そんな出来事の数々を、この学園は30年間優しく見守ってきました。

これからもずっと神出学園が学園生や修了生にとって大切な、かけがえのない居場所であり続けられるよう、スタッフ一同で学園のこの温かい雰囲気を守っていくとともに、一層「行きたくなる学園」になることを目指し、力を尽くします。

県立神出学園の沿革

平成元年 6 月	「県立高等自然学校(仮称)」の検討を開始する。(県教育委員会)
12月	「県立兵庫チャレンジ村(仮称)」の検討を開始する。 (県生活文化部こころ豊かな人づくり推進室、以下「推進室」という。)
平成3年 6 月	学園(仮称)」構想策定委員会を設置する。(推進室)
10月	ひょうご自立実践「ひょうご自立実践学園(仮称)構想の一環として 「県立山の学校」設置に関する検討を開始する。(推進室)
平成4年 6 月	「ひょうご自立実践学園(仮称)」基本計画策定委員会を設置する。(推進室)
平成5年 1 月	「ひょうご自立実践学園(仮称)」構想の先行事業として「県立山の学校」を 開設する。(推進室)
4 月	「県立神出学園(仮称)」(旧称「ひょうご自立実践学園」)の開設に向けて 学園開設準備担当を設置する。(推進室)
平成6年 3 月	「兵庫県立神出学園の設置及び管理に関する条例」を公布する。
4 月	財団法人兵庫県青少年本部に「県立神出学園開設準備室」を設置する。室長に 兵庫県生活文化部こころ豊かな人づくり推進室参事木村肇介が補せられる。
9 月	「兵庫県立神出学園の設置及び管理に関する条例」を施行する。 学園長に武庫川女子大学教授小林剛、校長に兵庫県立神出学園開設準備室長 木村肇介が補せられる。総務課、教務課を設置する。
10月	兵庫県立神出学園第1回入学式を行い、22 名の入学生を迎える。
12月	兵庫県立神出学園竣工・開園披露式を行う。
平成8年 4 月	校長に兵庫県立神出学園副校長中家康博が補せられる。相談指導課を設置する。
9 月	兵庫県立神出学園第1回修了の集いを行う。
平成 11 年 4 月	校長に兵庫県立神出学園副校長大島康清が補せられる。
平成 13 年 4 月	校長に兵庫県立神出学園副校長井上尚が補せられる。
平成 15 年 4 月	校長に兵庫県立神出学園副校長村上均が補せられる。(氏名標記：常用漢字で代用)
11 月	「兵庫県立神出学園開設 10 年記念式典」を行う。
平成 17 年 4 月	校長に兵庫県立神出学園副校長田中元が補せられる。
平成 19 年 4 月	校長に兵庫県教育委員会事務局人権教育課主幹出村多恵子が補せられる。
平成 21 年 4 月	「財団法人兵庫県青少年本部」から「公益財団法人兵庫県青少年本部」に改称。
10月	寮生活を週4泊5日から3泊4日に変革。県内在住の 15 歳から 25 歳以下の ひきこもり等の状態にある人を対象に「1日交流体験」を実施する。
平成 22 年 4 月	校長に兵庫県教育委員会事務局人権教育課副課長山口豊が補せられる。
平成 23 年 4 月	「1日交流体験」の対象を 15 歳から 35 歳以下とする。
平成 24 年 4 月	校長に兵庫県立三木高等学校教頭藤田浩毅が補せられる。
平成 25 年11月	「兵庫県立神出学園創立 20 年記念式典」を行う。
平成 26 年 4 月	校長に兵庫県立尼崎西高等学校教頭中村稔が補せられる。 選考対象の年齢上限を 20 歳未満から 23 歳未満に変更する。
平成 28 年 4 月	校長に県立教育研修所教務部長兼高校教育課参事北川真一郎が補せられる。 選考を年2回(4月及び 10 月)から随時(4月及び追加募集)に変更する。
平成 29 年 3 月	ユネスコスクール加盟承認
4 月	校長に農政環境部環境創造局環境政策課環境学習参事加嶋幸彦が補せられる。
平成 30 年 3 月	神出学園計画修繕工事(～ 11 月)
4 月	「1日交流体験」の対象を 15 歳から概ね 40 歳とする。
平成 31 年 4 月	校長に兵庫県立西宮甲山高等学校教頭塙守久が補せられる。
令和2年 4 月	学園長に元名寄市立大学教授小林宏が補せられる。
令和3年 4 月	校長に兵庫県教育委員会事務局人権教育課副課長宮脇智子が補せられる。
令和4年 3 月	小林宏学園長退任
令和4年 4 月	「1日交流体験」の対象を 13 歳から概ね 40 歳とする。
令和5年 4 月	校長に県教育委員会事務局特別支援教育課副課長榎本好子が補せられる。

開設時の神出学園

1994 ▶▶▶ 2023

記念樹
（八重桜ロード）

現在の神出学園

記念樹（玄関前）

平成 25 年度

38 期　4 月入学
39 期 10 月入学

本館前階段制作

就労支援セミナー

階段完成

階段制作途中経過

20 周年記念事業

宿泊体験（淡路島）

1日体験旅行（嵐山）

創立 20 周年記念式典が開催されました。
本館と駐車場を結ぶ階段を野外創造・野外制作で作りあげました。
就労支援セミナーが開催されました。

平成 26 年度

40 期　4 月入学
41 期 10 月入学

早瀬窯完成

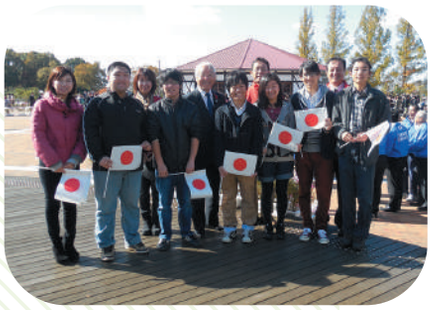
東北支援事業（神出クラウン）

ピザ焼き

東北支援事業（蔵王）

シロップ・メイプル

ゆず


行啓

ピザ窯（早瀬窯）が完成しました。
東北支援事業を開始しました。
神出クラウンが発足しました。
羊のメイプルちゃんが仲間入りしました。
みんなの心を支えてくれた馬のゆずが旅立ちました。

平成 27 年度

42 期　４月入学

東北ふれあい交流

ホイップとまっちゃ

マーケティングプログラム

クリスマス会

つばき

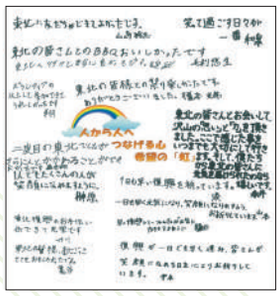
1日体験旅行（USJ）

アルフ

ホームカミングデイを初めて実施した年です。
東北支援事業から東北ふれあい交流に変わりました。
新プログラム（マーケティング・エコ環境・SST）が開始されました。
羊のまっちゃが誕生しました。
学園生と散歩をしていた犬のつばきが旅立ち、アルフが学園に仲間入りした年です。

平成 28 年度

44 期　入学



東北ふれあい交流でお世話になった方々へのメッセージ

サクラ

東北ふれあい交流事業

修了プログラム（吉本）

茶話会

新入生歓迎会

宿泊体験（ハチ高原）

ユネスコ スクール
UNESCO Associated Schools

３月ユネスコスクールに加盟承認されました。
馬のサクラが仲間入りしました。
この年度より入学時期が年２回から随時
（4 月・7 月・10 月）に変わりました。

平成 29 年度

45 期　入学

宿泊体験旅行（壱岐）

神出学園カレンダー

羊の毛刈り

チャレンジプロジェクトプログラム

チャレンジプロジェクトプログラム

地域ボランティアプログラム

農園プログラム

初めて宿泊体験旅行で「壱岐・西ノ島」へ行きました。
兵庫県庁や県民会館、こどもの館などでイベントに参加し、
一般の方々の前で「ジャグリング」や「こどもと文化」
「エコ環境」などプログラムの成果を発表しました。

平成 30 年度

46 期　入学

チャレンジウィーク

チャレンジウィーク

田植え

手打ちうどんづくり

レクリエーションスポーツプログラム

宿泊体験旅行（鳥取・大山）

新入生歓迎会

こども若者ひろば

いかして神出学フォーラム

東北ふれあい交流事業

「こども若者ひろば」や「いかして神出学フォーラム」などで日頃の活動を披露しました。
チャレンジウィークや東北ふれあい交流にも取り組みました。

平成 31 年度・令和元年

47 期　入学

学園祭

動物たちありがとうの碑

花見の会

宿泊体験旅行（四万十）

雌岡山登山（神出ランニング）

宿泊体験旅行（四万十）

東北ふれあい交流事業

鍋パーティー

新型コロナ禍前、最後の鍋パーティーや
東北ふれあい交流がありました。
この年には、神出で出会い、旅立っていった
動物たちへの感謝の碑が完成しました。

令和２年度

48 期　入学

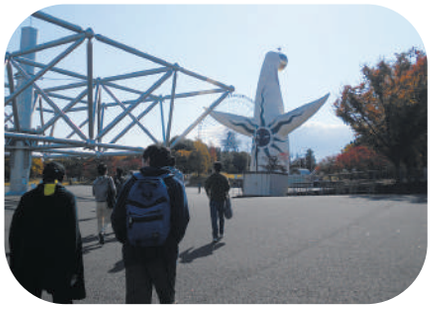
学園祭

クリスマス会

メエちゃんとサクラ

レクリエーション

レクリエーション


1日体験旅行（大阪万博記念公園・EXPOCITY）

修了記念プログラム（神戸どうぶつ王国・北野工房のまち）

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令され、学園は６月からはじまりました。
学園祭の人数制限、宿泊体験旅行が１日体験旅行に変更など、各行事では様々な制限の中、知恵を出し合い、工夫をして活動しました。また、かわいい笑顔で癒してくれたヤギのメエちゃんが旅立ちました。

令和３年度

49 期　入学

1 日体験旅行（淡路）

梅仕事

HAP 体験

動物飼育プログラム

農園プログラム

環境美化活動表彰

ボディワークプログラム

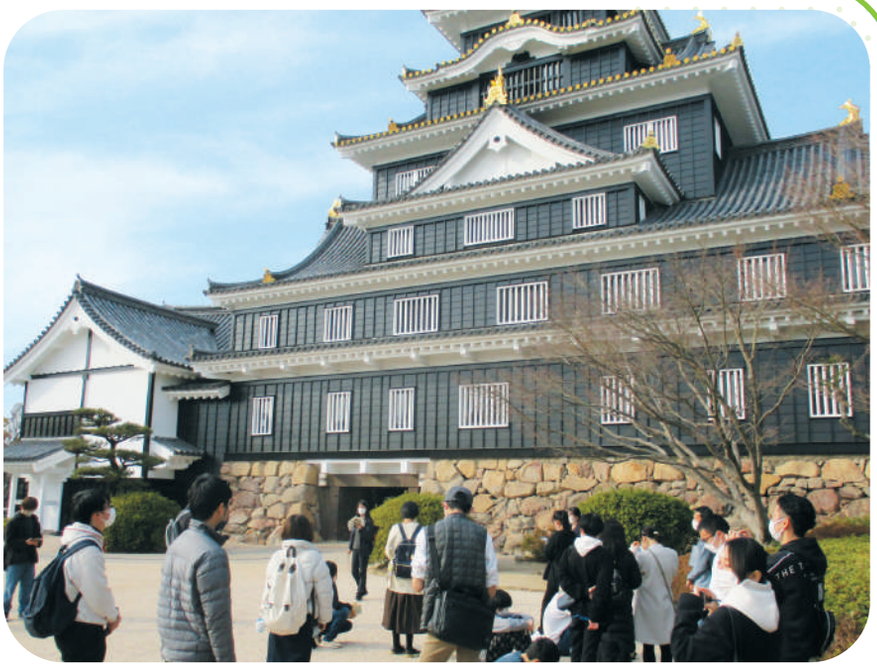
平成 27 年から行っている老ノロバス停付近の清掃や環境美化活動について、兵庫国道事務所長より表彰状をいただきました。
この年をもって、ボディワークやリフレクション、チャレンジライセンスのプログラムが終了しました。

令和４年度

50 期　入学

宿泊体験旅行（家島・神戸）

華道プログラム（花摘み）


修了プログラム（岡山）

ふれあい体験（三木山森林公園）

新春フェスティバル

学園生が撮影した神出からの夜景

ミュージックプログラム

雪の降った日

ショコラ

飯盒炊さん

この年から宿泊体験旅行が再開し、家島と神戸への旅行を楽しみました。
また５月には羊のショコラが旅立っていきました。

令和５年度

51 期　入学

和太鼓体験

和太鼓体験

保育園との環境学習交流会

ちょうちょまつり

ちょうちょドーム

日時計作り

野外制作プログラム

30年記念式典に向けて、学園生50期・51期は
野外制作プログラムで日時計を作ったり、
式典で披露する和太鼓の練習に励みました。

ある日の思い出

正門

正門からの坂道

自転車置き場

作業舎

神出学園内案内板

音楽室

本館玄関

本館階段

多目的ホール

女子寮

食堂

男子寮

女子寮　談話室

体育館

男子寮　談話室

修了生アンケートなどから見えてきたもの

Ⅰ はじめに

兵庫県立神出学園（以下、学園という。）では、不登校・引きこもりを経験し、自尊感情が低下した学園生に対し、ゆとりと潤いのある共同生活の中で、自然、人及び社会とのふれあいを通じて自己に対する理解を深め、自信と元気を取り戻し、自らの進路を見いだすことができるよう支援してきました。創立 30 年の節目を迎え、今後の支援に生かすために、これまで学園が行ってきた支援について評価検証を行いました。

Ⅱ 研究の概要

本研究では、自尊感情測定尺度（東京都版）を用いて、学園生を対象に 2022 年 6 月と 11 月の 2 回調査を行い、自尊感情の傾向を把握するとともに、2 回の調査結果を比較・分析しました。さらに、過去 10 年間の修了生を対象に学園修了後の生活等について質問紙法による調査を実施しました。

調査結果からこれまで学園で行ってきた支援について考察します。

1 学園生の自尊感情について

学園生 38 人に自尊感情測定尺度（東京都版）の「自己評価シート」（3 観点 22 項目）による調査を 6 月と 11 月の 2 回実施しました。この調査は記名式で、各項目に「4 あてはまる」から「1 あてはまらない」までの 4 段階で回答することで、自尊感情の傾向を把握できます。結果を在籍年数ごと（以下、在籍 1 年目の学園生を 1 年目生、 2 年目の学園生を 2 年目生という。）に比較・分析しました。

2 学園修了後の生活について

過去 10 年間（2012 年～ 2021 年度）の修了生にはがきで回答への協力を依頼し、オンラインで無記名式による調査を行い、回答を集計して分析しました。

Ⅲ 調査結果及び考察

1 学園生の自尊感情について

(1) 調査結果

6 月・11 月ともに調査を実施できたのは、1 年目生 14 人、2 年目生 11 人でした。22 項目について 3 つの観点（A 自己評価・自己受容、B 関係の中での自己、C 自己主張・自己決定）ごとに算出した平均値は下表のとおりでした。

	A 自己評価・自己受容		B 関係の中での自己		C 自己主張・自己決定	
	6 月	11月	6 月	11月	6 月	11月
1 年目生	1.90	2.34	3.01	3.03	2.49	2.71
2 年目生	2.33	2.15	2.83	3.00	2.47	2.44

また、3つの観点の平均値を6月と11月で比較すると、1年目生では「A自己評価・自己受容」と「C自己主張・自己決定」の平均値が上昇した者が10人ずつでしたが、「B関係の中での自己」では上昇した者が5人、下降した者が6人でした。

一方、2年目生では「B関係の中での自己」と「C自己主張・自己決定」では上昇した者と下降した者がほぼ同数でしたが、「A自己評価・自己受容」では下降した者の方が多かったです。

	A自己評価・自己受容			B関係の中での自己			C自己主張・自己決定		
	上昇	変化なし	下降	上昇	変化なし	下降	上昇	変化なし	下降
1年目生	10人	2人	1人	5人	2人	6人	10人	1人	2人
2年目生	2人	2人	7人	6人	0人	5人	5人	2人	4人

(2) 考察

自尊感情測定尺度(東京都版)の3観点における学園生の平均値はいずれも、東京都の高校生よりも低かったですが、学園生の入学の経緯を踏まえれば、このような結果は意外ではありません。しかし、学園に入学後には「A自己評価・自己受容」と「C自己主張・自己決定」の2つの観点で多くの1年目生に平均値上昇が見られたことからは、不登校等により低下していた自尊感情が学園での生活により、回復していることがうかがえます。また、「B関係の中での自己」で上昇と下降が拮抗しているのは、学園生が集団生活に適応できた者とまだ適応が難しい者とに二分していることを示唆していると考えられます。

2年目生は「B関係の中での自己」と「C自己主張・自己決定」では上昇した者と下降した者がほぼ同数で、「A自己評価・自己受容」では下降した者の方が多かったことの背景には、修了後の進路への不安が考えられます。学園生が自信と元気を取り戻して修了を迎えるためには、自分に適した進路を見いだせるよう支援することの重要性を改めて認識する必要があると考えます。

2 学園修了後の生活について

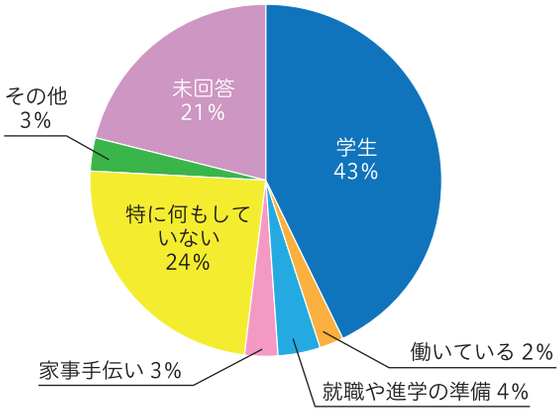
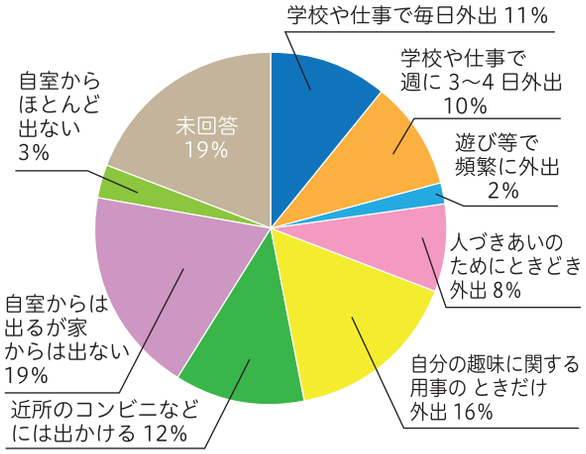
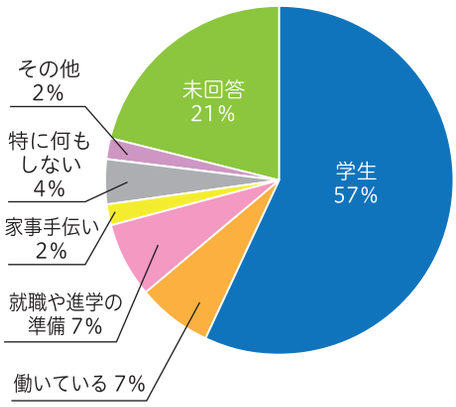
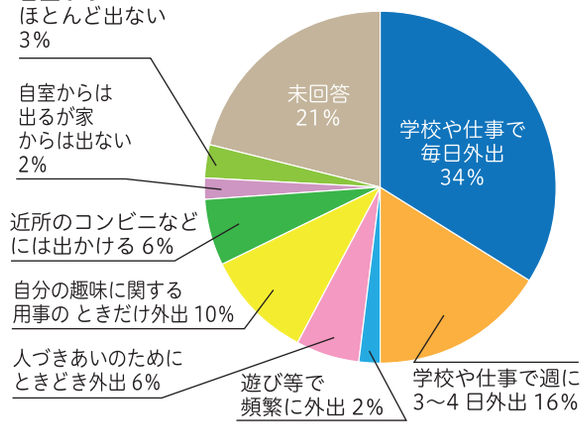
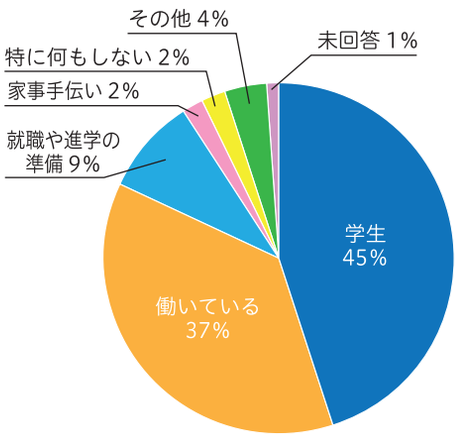
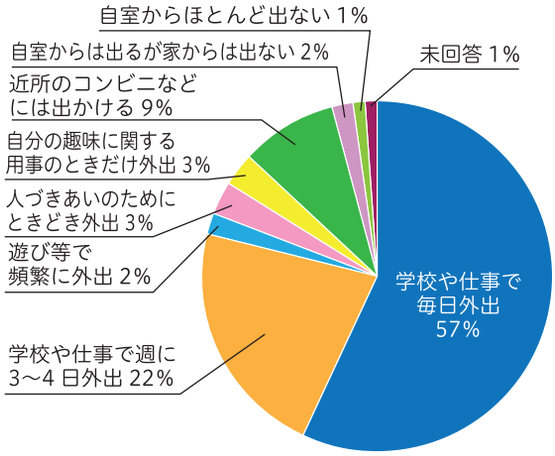
(1) 調査内容と結果

過去10年間（2012年～2021年）の修了生282人を対象に郵送で調査を依頼した結果、宛先不明による返送が33件あり、回答数は67件(年齢層は10代が15件、20代が52件)、回答率は26.9%でした。調査の内容と結果(抜粋)は、P21、P22の表及びグラフのとおりです。

「生活の中心となっているもの」は、学園入学前では「特に何もしていない」が24%であったのに対して、修了後は直後でも4%に激減し、現在では2%とさらに減少していました。 また修了直後に「働いている」のは7%のみでしたが、現在では37%に至っています。この結果に呼応するように、「外出状況」において内閣府が「狭義のひきこもり」と定義している「近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「ほとんど自室から出ない」の3様態を合わせた割合は、入学前の34%から修了直後は11%、現在は12%と、約3分の1となっています。

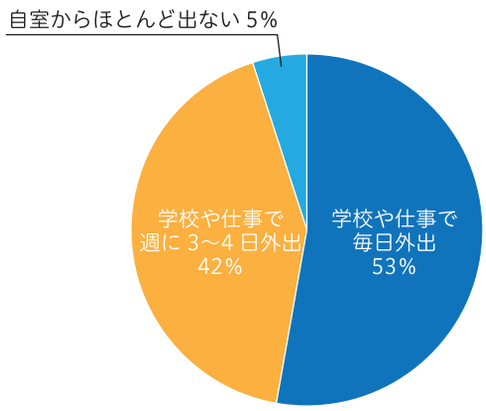
このような外出の状況は、修了後に支援機関を利用したことがあるか否かということと関連があることがうかがわれました。さらに、学園での経験が修了後に役に立ったかという設問では、在校中のすべての経験に対して60％以上の回答者が「役に立った」と評価していました。一方、修了後１年間の「フォローアップ」に対しては「役に立った」という評価は相対的に低かったです。

① 学園入学前、修了直後、現在のそれぞれの状況

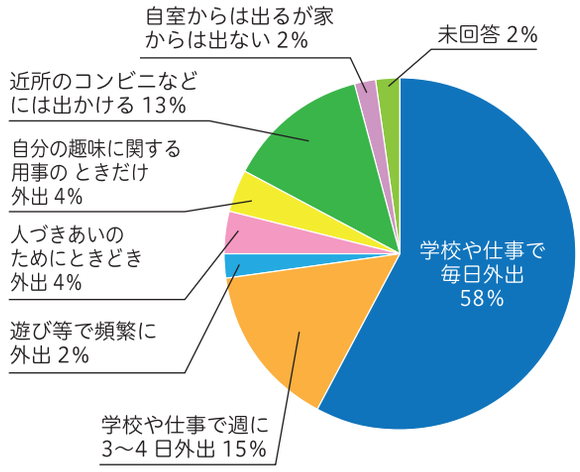
	生活の中心となっているもの	外出状況にいちばん近いもの
《学園入学前》		
《修了直後》		
《現在》		

② 修了後の支援機関の利用の有無と現在の外出の状況の関係比較

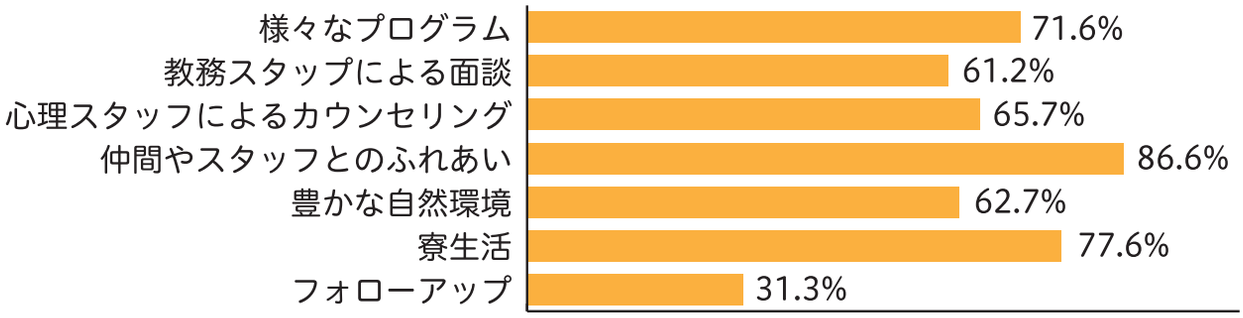
《利用したことがある 19 人》



《利用したことがない 48 人》



③ 修了後の生活で役立った学園での経験



(2) 考察

① 入学前は何もしていなかったり、あまり外出できていなかったりした者が多かったですが、修了後の現在は約 8 割が大学・学校・仕事等で日常的に外出をしていました。回答率は高くないものの、修了生は学園での様々な経験を糧として、現在の安定した状況に至っていることが考えられます。

② 修了後に学園以外の機関で相談等の支援を利用したことのある者は、利用したことのない者と比較して、より積極的に外出をする生活を送っていることが分かりました。学園生にも修了までに各地で保健・医療・福祉・教育等の機関で様々な支援が受けられることを伝え、一人一人のニーズに応じた機関につながることができるように支援することが、 修了後の生活をより豊かにすると考えられます。

③ 修了後の生活でもっとも役立ったと評価されたのは、「仲間やスタッフとのふれあい」でした。学園在学生の自尊感情調査でも、「B 関係の中での自己」の「自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している」という項目の評価が最も高く、特に 2 年目生の 11 月調査では 11 人中 9 人が「4 あてはまる」、2 人が「3 どちらかというとあてはまる」と回答しています。共同生活の中で人との関わりを学び、自尊感情を高め、社会で生きていく力を身につけていることが裏付けられ、とても感慨深いです。

④　学園からの修了生への支援として「フォローアップ」を実施していますが、これに対する「役に立った」という評価は 30％程度にとどまっていました。学園を巣立ち、地域へと相談先を広げることが、修了後の生活上での積極性につながることがうかがわれます。ただし、地域の相談機関につながっている修了生は 67 人中 19 人と必ずしも多くはありません。したがって、地域の相談機関を利用できていない修了生に対しては、より積極的にフォローアップを働きかけていくことも必要であると考えます。

Ⅳ おわりに

本研究の結果から、学園での共同生活の中で人との関わりを学び、自尊感情を高め、社会で生きていく力を身につけていることがうかがえることから、冒頭で示した学園の方針に沿った支援が実を結んでいると考えます。

しかし、不登校の捉え方の変化や、背景の複雑化等、学園生のニーズは多様化しており、学園での 2 年間の生活ですべての問題を解消することは困難です。学園生が修了後の生活に不安ではなく夢や希望を抱いてはばたくことができるよう、学園在籍中から修了後の生活を見据えて、居住地域の相談機関等との連携を一層強化し、困った時にすぐに相談につながる体制づくりやＳＯＳを出すスキルを身に付けることができるよう支援していきたいと考えます。

【参考文献】

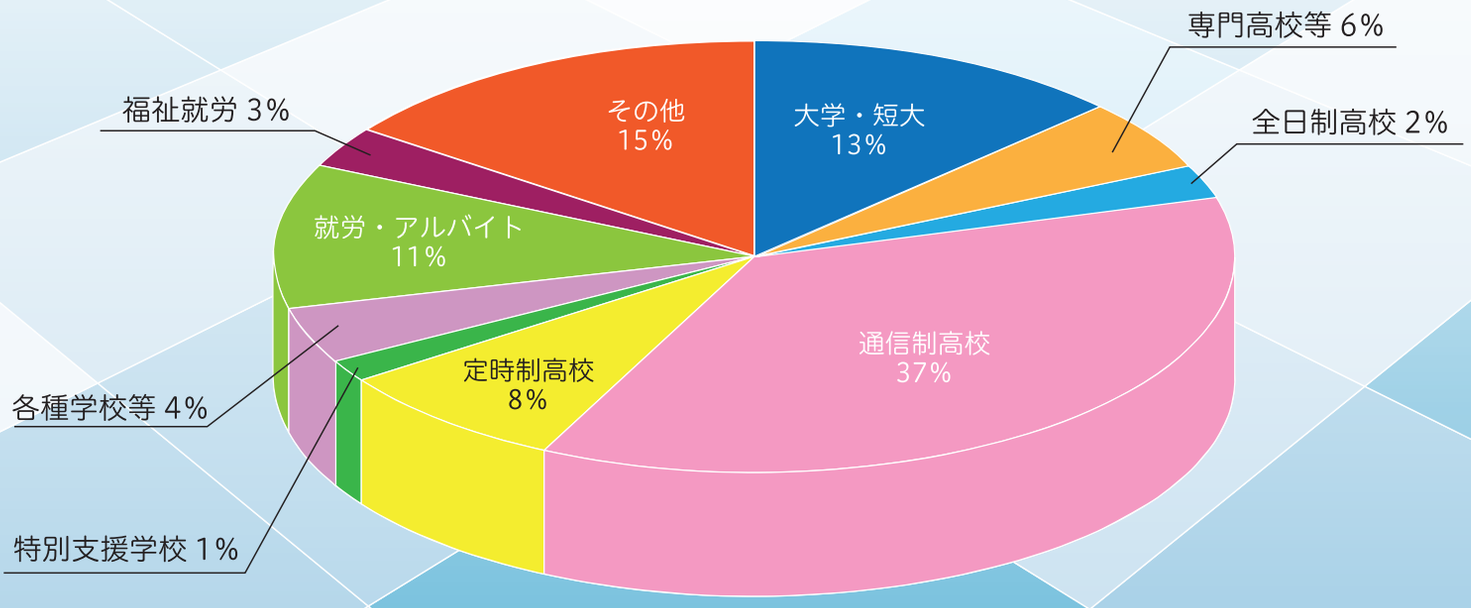
・東京都教職員研修センター紀要　平成 23 年度紀要、令和 2 年度紀要
・内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）報告書（概要版）」（平成 22 年 7 月）

新しい場所へと巣立った学園生たち（修了時の進路）

創立以来、800名近くの子どもたちが学園を巣立っていきました。創立20年までは、不登校のまま中学校を卒業した学園生が多かったです。しかし、この10年で通信制高校がさらに増加し、学園でも5つの通信制高校と単位連携を締結しています。その結果、通信制高校に通いながら学園に来る子どもたちが増えています。一方で、創立から変わらないのは、入学した子どもたちは友達作りやアルバイトなどさまざまなことに挑戦していることです。

以下のデータは、学園創立以来本年７月末現在の学園修了生の進路を集計したものです。高校進学・進級や、大学や専門学校、就労・アルバイトなど、自分なりのさまざまな進路を見つけていきます。学園に入学した段階では、外出やスクーリングなどで精一杯だった学園生たちが、巣立つ時には新しい道に向かって歩き出そうとしている姿を見ると、言葉にならない想いが溢れます。

修了生進路状況　割合



修了生とご家族からのメッセージ

神出学園創立30年記念を迎えるにあたり、過去の修了生やそのご家族

たくさんの思い出神出学園

創立30年おめでとうございます。学園で過ごしてきた２年間は、今にとってはいい環境でいい場所でもあり、いい体験を沢山できたな！と沢山思い出があります。修了後も１日交流体験に参加させてもらい、癒しを沢山もらって毎年かわるスタッフさんにも話を聞いてもらいありがとうございます。また落ち着いてきたらアルフやサクラに会いたいです。もし何かお手伝いできることがあれば修了生としてのお手伝いできたら嬉しいです。
在園生へ。２年という長いような短いような寮 生活を楽しんで過ごしてください！進路を決めないと！とか次どうしようとか焦らずに、担当スタッフやカウンセラーの方と落ち着いてお話して進めていってください。もし記念冊子頂けたら嬉しいです。神出で貰った写真など大切な場所に入れてるくらい大事にしています。

仲間や力をくれた神出学園

学生生活で挫けてから、何もかもから目を背けた私にたくさん力をくれました。人と付き合う楽しさ、寄り添ってくれる人のあたたかさ、生き物と戯れ、土に触れ、食を楽しみ、本を読んで、走って、笑って。本当に何気ないことばかりだけれど、想像より何倍もあたたかいものをくれました。私個人は落ち込んだ自分を完璧に乗り越えられてはいないけれど、仲間や力をくれた学園があの場所にあると思うだけで慰められています。今は就活中です。たくさん悩まされているし高校在学中に叶うかもわかりません。が、やりたいことは決まっています。たくさんたくさん、ありがとうございます。

かけがえのない２年間

本人にとって、かけがえのない２年間となりました！高卒の資格等が得れる訳ではありませんが、ここを通らないと、何も始まらなかったと言えます。自分の限界を越える事ができ、生活面や様々な事で、色々教えられ、訓練されました。お世話になり、有難うございました♪

いろんな人生のルートがある

神出学園で過ごせたことで時間を無駄にせず活用することができ、自分のための準備や訓練が出来ました。神出学園のことをもっと若者に知ってもらって、色んな人生のルートがあることを知ってもらって可能性を見つけて欲しいです。神出学園には本当に感謝しています！

（平成 24 年度～令和 3 年度修了生）から学園生活を振り返りたくさんのメッセージを頂きました。（抜粋）

神出学園は最高の居場所

神出学園での生活を通して、たくさんの友人ができ、初めて青春と呼べるものを経験しました。動物の世話、農業、乗馬、ジャグリングなど、普通の生活では得られない体験をして、だんだん自信と元気を取り戻しました。神出学園で過ごしたあの日々があったから、僕は高校に再チャレンジし、今は自分が行くなんて思ってもいなかった大学に通っています。将来は、スクールソーシャルワーカーになって、入学当時の自分のように苦しい思いをしている子どもたちにも寄り添い、居場所を作れる人になりたいです。神出学園は、僕にとって最高の居場所でした。

居場所探しに奮闘中

不登校になった中学時代。この先への不安があったが、神出学園に入学して、スタッフの方のサポートや仲間との出会い、自然と触れ合い全て自分にとってプラスになりました。自分が発言してもいいんだと思えて、自信がついて、人と接する事に楽しさを教えてもらいました。この 2 年間という時間が無駄な事は 1 つもなくて、この神出学園での生活全てが良い経験になりました。今は高校へも入学できて将来の自分の居場所探しに奮闘中です。僕に居場所を与えてくれた神出学園は最高の場所です！

子どもたちを癒す場所として

中学生時代いじめから不登校になり自分に自信が持てなかったと思いますが神出学園の環境で少しずつ自分らしさを取り戻せたのではないかと思います。ここの素晴らしい自然とおいしい食事も娘を元気づけてくださったと思います。本当にありがとうございました。これからも子供たちを癒す居場所として続いていってほしいと思います。

悩み相談を受ける側に

外に出ることすらできなかった自分が今では楽しく仕事に行けるようになり、職場や友人の悩み相談を受けることも増え、色んな経験ができるようになりました。神出学園での生活があったからこそ今の自分があると思います。当時のスタッフさん方に感謝したいです。ありがとうございました！

修了生とご家族からのメッセージ

神出学園創立30年記念を迎えるにあたり、過去の修了生やそのご家族

神出学園の経験を仕事に活かすことに

修了生として、神出学園での心理面談、友達との共同生活、寮での泊まり、スタッフとの会話などは不登校で引きこもりだった私からすれば、とてもいい刺激といい社会経験になったと思います。ただ、高校との連携が難しく、そこはやはり個人のやる気や能力や頑張れる体力、気力、周りの友達がどこを目指すか、などが大きく関わってくるな、という印象です。今では私も不登校等理由がある子どもに関する仕事に着いていますが、神出でのスタッフの皆様がしてくださった関わりがどれだけ難しかったか、どんな声かけをすればいいか、などの経験を仕事に活かすことができています！当時お世話になった方々ありがとうございました！！

進路実現に向けた大きなきっかけ

修了から正社員として就職し通信制の大学と両立させ通信制の大学は２度卒業し単位も修得できました。関東地方、関西地方双方に主に通信制大学生の為の通信制大学公認の若者支援サークルを運営してまいりました。現在はその実績、仕事での評価を頂き、大学院へ学費全額免除かつ生活費国費支給という条件で進学し大きく成長することが出来ました。研究テーマでも通信制など経験した方への体験談共有 Web サイト開発運営を考えております。きっかけは神出学園での生活でもありますのでその後の進路や社会生活において大きな良い影響を受けております。ありがとうございました。

いろんな人に寄り添える人に

神出学園に入学して、自分のことを見つめ、今まで考えることができなかった自分の強みや、弱みをカバーする方法をたくさん学ぶことができました。修了してから精神的に不安定になることもありましたが、うまく付き合える方法を自分で探すことができました。今も体調に波がありますが、自分の身体と相談しながら、教職に就いています。神出学園での生活経験を活かし、子どもやいろんな人に寄り添える教員になれるよう、頑張ります。

神出学園を選んでよかった

これからも、生きづらさを抱えてる人が一人でも多く学園と出会えますように。様々な伝説を作ってください。神出を選んでよかったです。自分の人生糧になるものがたくさんありました。本当に学園で２年間過ごせてよかったです。

(平成 24 年度～令和 3 年度修了生)から学園生活を振り返りたくさんのメッセージを頂きました。(抜粋)

卒業後、前向きに過ごしています

創立30年おめでとうございます。この学園で、少しは前向きになったと思います。これからも、学園生の支援宜しくお願いします。
あまり良い形では修了できず、その節は申し訳ありませんでした。色々大変なことがありましたが、現在は大学に通えており、無事卒業できそうです。ありがとうございました。学園生活のお陰で外出できるようになりました。動物との触れ合いも癒されました。学校生活で失われてしまった人に対する信頼感、世の中に対する安心感を取り戻すことができました。感謝しています。
自分はスタッフさんや先輩、同期やカウンセラーさんとの関わり合いで、今の自分がつくられたと思っています。様々な経験をさせてくれた神出学園には大変感謝しています。

ありがとう！神出学園

私は小学 2 年生から中学 3 年生まで 7 年間不登校だったのですが通院していた精神病院の先生に兵庫県立神出学園の存在を教えてもらい 2 年前の冬に入学を決意し、無事卒業したユーモア溢れかえる、声の大きいアクティブな引きこもりです。神出学園を卒業してからまだ全然時間は経っていないですがあの 2 年間はとても大切な思い出です。あと 1 年、5 年、10 年したら言っていることが変わっているかも知れませんが、今の私はとてもとてもあの 2 年間を大切にしていきたいと思っています。結局長々と何が言いたいかと言うと「ありがとうございました」が言いたいのです。神出学園のおかげで元気になれた私のことを知って欲しいのです。それと私が知らない後輩たちには頑張って、のんびりでもいいから元気になって欲しいのです。

神出学園のおかげで元気回復

神出学園を卒業後、神戸学院大学(社リハ)に進学しました。神戸学院大学では成績優秀者として 2 回奨励生に選ばれ、社会福祉士や保育士の資格も取得し、学部総代として卒業式で答辞を読みました。今年から関西学院大学の人間福祉研究科に進学し、フリースクールの研究をしています。大学院でも奨励生に選ばれ、学費免除で通えています。神出学園があったおかげでここまでやり直すことができました。ありがとうございます。

他にもたくさんのメッセージを頂きました。
ご協力していただいた皆さん、本当にありがとうございました。

自然の中で学び、心を癒やす

神戸新聞 /2013年（平成25年）11月4日

神戸・神出学園

自然の中で学び、心を癒やす

不登校を経験した青少年が通う全寮制の県立神出学園（神戸市西区神出町小東野）が創立から20年を迎え、3日、記念式典が開かれた。豊かな自然の中で傷ついた心を癒やし、居場所を見つけて巣立った生徒は500人を超える。最近は引きこもりの成人にも門戸を開いており、支援の充実に向けて模索を続けている。（阿部江利）

不登校生を支えて20年

■記念式典に230人参加

1994年10月、全国初の公立フリースクールとして開園し、県青少年本部が運営。小中高校で不登校を経験した15～19歳を毎年春と秋に受け入れ、現在も36～39期生ら42人が2年間のカリキュラムを受けている。月～木曜日の3泊4日、動物の飼育や農業体験、勉強に取り組み、木曜日の夕方に帰宅する。

式典には、修了生や来賓ら約230人が出席。小林剛学園長が「20年、多くの人に支えられてきた」と歩みを振り返り、社会人となった修了生ら3人が自らの経験を語った。

高校で不登校になり、「自分には明るい未来がないと思っていた」と明かした28期生の女性（24）は保健室の養護教員になった。「スタッフが『そのままでいい』と声をかけてくれて、頑張り過ぎなくていいと思えるようになった。今は明るい言葉を受け入れられないかもしれないが、生きていればいいことがある」と後輩に呼び掛けた。

幼い時からプライドが高く、いつも一人だったと明かした14期生の男性（30）は小学校教諭に。「今の自分があるのはスタッフが背中を押してくれたから。私もいつかここで働いてみたい」と話した。

同園は2009年、35歳までを対象にした1日体験プログラムを始めた。修了生や一般成人が利用しており、楠田俊夫副校長は「就労や進学など、修了後の生徒らが社会人として生活するための下地づくりにも力を入れていきたい」と話している。

来賓や修了生が集まり、創立20年を祝った＝神出学園

修了生「背中押してくれたから、今の自分がある」

兵庫ジャーナル /2015年（平成27年）8月19日

被災地交流 副知事に報告

「地元の人に喜んでもらえてよかった」

被災地交流 副知事に報告

宮城訪問 神出学園生ら8人

神戸市西区のフリースクール「兵庫県立神出学園」の園生と卒業生8人が18日、兵庫県庁に金沢和夫副知事を表敬訪問した。東日本大震災の被災地、宮城県山元町の夏祭りに参加したことや、近畿総合通信局主催の「動画フェスタin近畿」で生徒部門最優秀賞を受けたことを報告した。

宮城県の夏祭りには昨年に続いて参加。22人が準備作業などに携わり、うち4人がピエロになって祭りを盛り上げたという。園生は「地元の人に喜んでもらえてよかった」と笑顔を見せた。

また、ネット倫理向上を目的に催された動画フェスタでは、今年5月に表彰された。2014年度に有志数人が「怖すぎるよ！ネットトラブル！」の題名で3分間の動画を制作したことを説明。実際に見たという金沢副知事は「完成度が非常に高かった」とたたえていた。（斉藤正志）

宮城県山元町での夏祭り参加などを報告する神出学園生＝兵庫県庁

人前に出る自信がついた

兵庫ジャーナル /2017年（平成29年）12月18日

青少年本部 5施設出張「こども・若者ひろば」

初開催を県庁と県民会館ロビーで

幼稚園児・高校生ら 元気と歌声届け、喝采

子どもや若者が元気に活躍する姿を通して夢や希望を届ける「こども・若者ひろば」の第1回目となるイベントが8日、県庁と県民会館の2カ所で開かれた。県青少年本部が所管する5施設が出張し、合同で活動を発信する手づくりの事業。シンボルとなる立て看板は県立山の学校がスギ材を加工して製作し、県立神出学園の生徒が揮ごう。イベントの司会も両校生徒が担当した。

皮切りとなる第一弾は県庁2号館の1階ロビーが舞台。こどもの館による企画で神戸幼稚園と県立太子高校のJコーラス部がミニコンサートを開催し、兎和野高原野外教育センター、いえしま自然体験センターなど4施設は展示・体験ブースを設けた。

会場には昼休み中の議員や県幹部ら約220人が訪れ、園児61人を出迎え。観客の手拍子に合わせて「パレード」などをアカペラで元気いっぱいに合唱した。

このあと、歌のボランティアを展開する太子高Jコーラス部46人がサンタやトナカイの衣装で登場。美しい歌声でクリスマスソングや懐メロを奏でたほか、議員ら来場者と高校生がペアになったミニゲームで盛り上がり、普段は静かなロビーに喝采と笑い声がこだました。参加した高校生は「いつもより緊張した」「議員や職員のノリがよかった」と満足気に話していた。

また、黒川治県会議長は「子どもたちの活動をうまく行政が取り入れ、発信している。ぜひ3号館の議場襟でも実施して」と提案していた。

続く県民会館の1階ロビーでは約150人が来場。同コーラス部のほか、神出学園のパフォーマンスチーム「神出クラウン」が出演し、ボールや独楽（こま）を空中で操るジャグリングなどで観客を沸かせた。東北の被災地支援をきっかけに結成したチームで、学園生は「人前に出る自信がついた」と魅力を語っていた。

また、山の学校生徒は裏方を支えて活躍。午前中は園児らの兄役となり、木製ワッペンづくりや紙工作を指導して子どもたちを楽しませた。

県庁での初開催を終えて太子高校Jコーラス部、神出学園、山の学校生徒が記念撮影

高校生と議員らがペアになってミニゲームを楽しむ場面も

「学園や歴代校長が取り組んできた成果が」

兵庫ジャーナル /2017年（平成29年）7月3日

神出学園がユネスコスクールに

フリースクール加盟は国内初

「環境教育」分野で承認

「自然フル活用でさらに発展」加嶋校長

県立神出学園（加嶋幸彦校長）がこのほど、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が展開する「ユネスコスクール」の環境教育分野で加盟が承認された。フリースクールが登録されるのは、国内初となる。

ユネスコスクールは、ユネスコの理念を教育現場で実践する学校を認可する制度。世界182カ国で1万校以上が加盟し、ネットワークを通して世界中の子どもや教員が情報や体験を分かち合うとともに、地球規模の諸問題に対処できる新しい教育や手法の開発に取り組んでいる。

国内では幼稚園や小・中・高校など1043校が認定され、うち県内の加盟校は7校となっている（平成29年4月現在）。

同学園は平成26年8月、当時に校長を務めていた中村稔・県立篠山産業高校校長の提案でユネスコに申請を開始。3年間を要したものの、学園で取り組むギフチョウの放蝶や保育園児との環境学習、ホタルが生息できる環境づくりなどが評価され、ユネスコ本部の審査を経て承認にこぎつけた。

学園では、子どもたちが選ぶ体験プログラムの中に「エコ環境」を設定。今回の加盟により、ビオトープなど自然環境を利用した環境学習をさらに充実させ、ガーデニングや動物飼育など他のテーマとも連動させながらプログラムを進化させていきたい方針だ。

加嶋校長は、「学園や歴代校長が取り組んできた成果が認められた証し。今後は学園の自然をフル活用してプログラムを発展させ、命の大切さを感じることができる子どもを育てていきたい」と喜びを語っていた。

ユネスコスクールの加盟承認証を前に加嶋校長が喜びを語った

「地域美化で地域にも貢献」

兵庫ジャーナル /2016年（平成28年）1月4日

神出学園

地域美化で国交省と協定
バス停に花壇設け清掃

県立神出学園（中村稔校長）は12月17日、学園生の奉仕活動として定期的に地域の清掃・美化に取り組んでいくため、国道175号線を管理する国交省の兵庫国道事務所と「ボランティア・サポート・プログラム（VSP）」協定を締結した。

同線沿いにある神姫バス停留所「老ノ口」は、学園生の多くが利用する同園最寄りのバス停。この周辺に学園プログラムで育てた季節の花々を植えた花壇を設置し、定期的な清掃活動を行って地域の人々の心を癒すきっかけになればと企画された。

学園で実施された調印式には、老ノ口地区の梶自治会長、神姫バスの畑岡・三木営業所長と野田・三田営業所長が来賓として出席。兵庫国道事務所の富永副所長は、「175号線では4組目のVSP団体となった。多くの方々に支えられ、175号線が美しく華やかになることをうれしく思う」と感謝を述べ、協定書を交わした。

学園では今年度から、社会性を育む多くの新しいプログラムを実施。〝地域ボランティア・プログラム〟はその一つで、中村校長は「学園生たちの自己有用感が高まり、地域にも貢献できる素晴らしい取り組みを今後とも続けていきたい」と話している。

中村校長（左）が国交省兵庫道路事務所と協定書を交わした

「信じ合える仲間に必ず会える」

兵庫ジャーナル /2023年（令和元年）8月12日

神出学園・山の学校

修了生らが経験と学び語る
初共催でオープン講座を実施

不登校などの青少年を支援する県立神出学園と、自然の中でたくましく生きる力を培う県立山の学校が初めて共催した「かんで・山学オープン講座」が1日、姫路総合庁舎敷地内の姫路職員福利センターで開かれた。保護者や学校関係者など定員80人を上回る参加者が来場し、両校で人生の糧を得た修了生の言葉に耳を傾けた。

「ひきこもりの3年間、消してもいい」

同学園が平成22年から実施する学外向けの講座で、悩みを抱える子どもの対応や関わり方などを伝えるのがねらい。

10周年を迎える今回は山の学校も参画し、両校の修了生と保護者、スタッフらがパネリストとなって意見発表した。

不登校を経験した学園修了生で、現在は大学に通う永井さんは「自分のペースで考えながら活動でき、動物飼育などで命の大切さや生きる喜びを知った。寮生活で他人を尊重することも学んだ」と振り返った。

山の学校修了生で、中学でいじめに遭いひきこもりになったという大前さんは、「人が信じられなかったが、同期生とのふれあいで肩の力を抜くことができた。前を向くことと、変わろうと思う勇気を持つ大切さを実感した」と感謝を伝えた。

その上で二人は、「友人、家族、スタッフの支えがあるからこそ頑張れる」「信じ合える仲間に必ず出会える。勇気を出して自ら歩み寄って」と不登校の若者にメッセージを送った。

また、大前さんの母親は「ひきこもりの3年間は、人生80年のほんの僅か。成長した息子を見て、3年間は（記憶から）消してもいいと思えるようになった」と涙ながらに胸中を吐露した。

終了後、学園の塙守久校長は「両校の特徴を分かりやすく色分けし、うまくアピールできた」、山の学校の大裕一也校長は「学校生活の中で、子どもの心の奥深くまで接していく必要性を感じた」と話していた。

神出学園と山の学校の修了生や保護者らが意見発表

世界に一つだけのオリジナル！

兵庫ジャーナル /2023年（令和2年）11月2日

神出学園

オリジナル七宝焼きづくりに挑戦
日本の伝統工芸ふれる機会に

不登校の子どもらを支援する県立神出学園（塙守久校長）は10月14日、特別プログラム「七宝焼き体験教室」を神戸市西区の同学園で開き、学園生32人が七宝焼きのペン立てづくりにチャレンジした。

塙校長による発案で、芸術への関心を深め、伝統工芸の文化にふれる機会を設けようと企画された。今回が初めての開催となる。

七宝焼きは、銀や銅などの金属素地にガラス質の釉薬を焼き付けて装飾する、日本の伝統工芸技法。仏法の至宝とされる七宝の美しさに匹敵すると言われている。

同教室では、宍粟市在住で銀線七宝瑠璃の会を主宰する岡田和幽師範を講師に招き、午前と午後の部に分けて実施した。

学園生はまず、銅板に釉薬を盛りつけて白地を作り、花やネコなどの絵を自由に下書き。そこに色とりどりの釉薬を付けた後、電気炉で焼き付けた。

仕上がり後、色味が変化する釉薬の特徴に感嘆の声をあげつつ、学園生らは世界に一つだけのオリジナル作品を喜色満面で見つめていた。

作品は11月4日の学園祭で展示する。

11月4日 学園祭で展示

学園生が世界に一つだけのオリジナル七宝焼きづくりに挑戦した

地球規模で広がることの大切さを

兵庫ジャーナル /2023年（令和2年）2月17日

出神学園 ESD活動で成果発表会

“小さな循環”を地球規模に

不登校などを経験した若者を支援する県立神出学園（塙守久校長）は5日、ESD（持続可能な開発のための教育）の成果発表会を神戸市西区の同学園で開催し、学園生や保護者ら約60人が参加、エコや資源の再利用などを取り入れたプログラムの活動を発信した。

ESDとは、資源が循環し、持続していける社会づくりを担う人材を育てる学習のこと。

同学園は自然や環境学習を生かした独自の自立プロジェクトを展開しており、平成29年3月にはユネスコスクールに加盟承認。以降、農園や動物飼育、食育、野外制作といった7つのプログラムにESDの理念を導入し、実践している。

同発表会はエコ環境プログラムに参加する学園生らが運営、進行を担当し、7プログラムの参加者が順番に1年間の活動を報告した。

農園で作った野菜を原料にした季節ごとのジャムづくりや食物残さの飼料化、古着を販物に再利用する取り組みなどを伝えたほか、野外制作では廃材をビオトープの手すりや防護柵に再利用した事例を紹介。これらの〝小さな循環〟が地球規模で広がることの大切さを訴えた。

続いて神戸大学大学院の清野未恵子准教授がコーディネーターとなり、学園生2人とスタッフ2人が意見交換。

中で「学園で自給自足ができるか」のテーマでは、「雨水を生活用水に活用する」「近くにあるため池を利用する」など真剣な提案も出ていた。

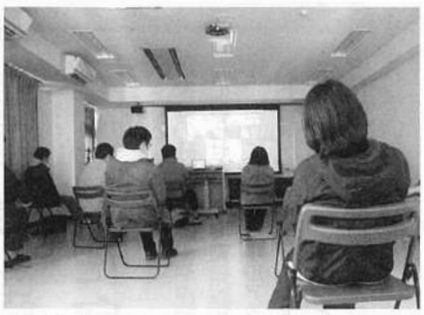
自給自足などをテーマに学園生やスタッフらが意見交換した

「自分を客観的に・・」

兵庫ジャーナル /2023年（令和5年）2月6日

神出学園

ウェブでSST好評 「自分を客観的に」


ズームを使ったSSTの講義

不登校の子どもらを支援する神戸市西区の県立神出学園（宮脇智子校長）では、社会生活を営むために必要な技能・能力を身に付けるソーシャルスキルトレーニング（SST）を、ウェブ会議サービス「ズーム」を使って行っている。

平成23年度から始め、28年度からは学園生全員に年間22回ほど実施。コロナ禍で外部講師を招くことが難しくなり、昨年度からズームを活用したところ、SSTが苦手だった学園生も気軽に参加するようになった。

姫路医療専門学校の上原央先生のほか、高知県の大学や大阪府の病院の先生が講師を務める。遠方の先生の講義回数も減らさずに済んでいる。

SSTでは、その日のテーマに沿ってトレーニングをする。「自分の中の天使と悪魔」の回では、「洗濯物をたたまないといけないとき」や「二度寝をしてしまうとき」を想定し、「天使の声（ただむとすっきりする、起きると楽しい）」や「悪魔の声（めんどくさいなぁ、布団の方が気持ちいい）」を考える。先生から「悪魔の声が出てきても当たり前のこと。その気持ちに気付くことが大切」などとアドバイスを受けた。

学園生からは「自分や相手への理解が深まった」「自分を客観的に見られるようになった」などの感想が聞かれた。

「燃え上がれ！」KANDE SUMMER FES2021

兵庫ジャーナル /2023年（令和3年）8月2日

不登校の子ども支援の神出学園で恒例の夏祭りを開催

不登校の子どもらを支援する県立神出学園（宮脇智子校長）は7月21日、学園生が企画・運営する手作りイベントの夏祭りを神戸市西区の同学園で開催した。

今年のテーマは「燃え上れ！KANDE SUMMER FES 2021」。コロナの感染拡大対策で、参加者を保護者のみに限定した。

野外の特設ステージでは、歌やバンド演奏、ジャグリングなど学園で取り組むプログラムの成果を元気よく披露した。

また、本格ピザ窯での焼きたてピザや焼きそばといった飲食系の模擬店は残念ながら中止に。学園生は7つの班に分かれ、ヨーヨー釣りや輪投げ、射的、魚釣りなど趣向を凝らしたゲーム店を設け、縁日のような賑わいで祭りに華を添えた。

神出の僕ら

作詞は学園生です。
学園で経験したこと、自分の心の成長を歌詞にしています。

秋空高く　鳥の声ひびく
僕は黙って　鳥を見ていた
泣いてばかりで　飛ぼうとしない
鳥を見ていた　僕も泣いてた

自分一人で　飛び立てもせず
誰かに頼ること　知らずにいた鳥

※今　僕に　あふれる勇気は　ここで過ごした　時間の中
「ありがとう」僕が　飛び立つ時は
君の笑顔と言葉に　守られていた

ほら　誰かが　落ち込んでいる
でも　みんなで　励まし合おう
気持ちの網が光にかわり
キラキラのネットで　君を守る
寂しいときに　ツバキの声が
ほほえんだゆずが　そばにいてくれた

飛ばない鳥に　僕は言った
「君は必ず飛べるはずだ」と
「本当の居場所を見つけた君は
『ありがとう』の気持ちのままで　飛べればいい」

※繰り返し

自分たちを傍らで支えてくれた大好きなツバキ、ゆず。
今も学園生達に歌い継がれています。

癒しの丘の学園長
―小林剛学園長の思い出―

県立須磨東高等学校　校長　　塙　守久（第13代校長）

うららかな春のある日、ヤギや羊がゆったりと牧草を食べていました。若葉色の丘の上にある本館前のベンチで、その牧場をニコニコと穏やかな表情で眺めながら、学園長は言いました。「この景観が大切なんだよ。」「この景色を見ながら、自分を見つめるんだよ。」と。神出学園で大切なことをたくさん教えていただきましたが、それが学園長から私への最初の言葉でした。

「食べることは、生きることなんだよ。」学園長と食堂で昼食をよく共にしていた頃、いつも言っていた言葉です。「だから、食堂は大切なんだよ。美味しくなきゃダメなんだよ。」また、陶磁器の食器を掲げながら「本物を見て、触って、感じて欲しいんだよ。」と、口癖のように言っていました。食堂は、学園長が大切にしていた支援の一つで、一番の自慢でもあり、楽しみでもありました。

ある学園生が、入学前宿泊体験の直後「ここの食事、無茶苦茶美味い！これは正式に入学すれば、食事は楽しみの一つになる。」と言って入学を決意したこともありました。その学園生は、瞬く間に元気になり、学園の中心的存在として各行事などで活躍し、心も体も成長し、巣立っていきました。学園長は、心が折れてしまった学園生が元気になるための魔法を知っていたようです。また、学園生に寄り添い、決して急がず信じて待つ姿勢によって、どれほどの子ども達が救われたことでしょう。

令和元年 11 月末、学園長から電話があり、「体調が優れないので暫く休みをとるよ。」と連絡がありました。そして、その電話の最後に「もう十分やったから。あとを頼むよ。」と。それが学園長から私への最後の言葉でした。今でも本館前のベンチに座ると、ふと学園長が話しかけてくるような気がします。「今日のお昼ごはんは何かな？」と。